

＜小学校＞

英語教育の充実に向けて

～校内教員研修プログラム編～



はじめに

次期小学校学習指導要領において、「外国語活動」は早期化及び教科化という形で、その充実が図られることになりました。平成 32 年度より次期小学校学習指導要領が全面実施されますが、英語教育に関しては、平成 30 年度から段階的に先行実施される予定です。

これらに向けて、今後、各教育委員会及び各学校においては、小学校英語教育の充実を円滑に実施していくための取組が進められることとなります。その取組の一つが、教員の力量向上を目的とした研修です。教員研修の改善・充実に関して「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（2016）では、英語教育担当指導主事や、文部科学省の英語指導力向上事業に参加した「英語教育推進リーダー」などが中心となって実施する各種研修、小・中学校教員相互の授業参加、合同研究会などを挙げた上で、「このような取組を通じて、学級担任はじめ全教員が外国語に触れ、外国語を指導する力を身に付けることができるよう、校内研修や外国語教育における域内の連携体制を充実させていくなど、各地方自治体の実態に応じた体制を構築することが求められる」としています。

神奈川県立総合教育センターでは、今年度、小学校英語教育の充実に関する施策や議論などを参考に、指導体制や目標設定、教材及び学習内容の在り方などに関して、現状や課題、今後の方向性等を整理した上で、教員を対象とする研修プログラムの検討を行いました。このプログラムのキーワードは、「既存リソースの活用」と「ワークショップ型研修」です。これまで築いてきた学校の物質的、人的資源に着目するとともに、講義形式で受動的に「知識量」を増やすのではなく、教員一人ひとりが主体的、対話的に関わりながら考え、学ぶ内容としています。

本冊子では、その校内教員研修プログラムを収録しています。「活用資料編」とともに、今後、各学校の状況に合わせ、活用していただければ幸いです。

平成 29 年 3 月

神奈川県立総合教育センター
所 長 北村 公一

I n d e x

ワークショップ型研修を始めよう	1
Plan 1 年間指導計画の見直しを行おう	2
Plan 2 授業アイデアを出し合おう	4
Plan 3 実践事例をアレンジしよう	6
Plan 4 絵本の活用方法を考えよう	8
※ それぞれのプランは70分～80分で完結する内容になっています。 各学校の状況に応じて必要なプランを活用してください。	
参考文献	10

ワークショップ型研修を始めよう

1 ワークショップとは

ワークショップとはもともと「職場」「作業場」など協働で仕事を行う“場”を表す言葉です。講義形式で受動的に知識量を増やすだけの研修とは違い、主体的に課題に向き合い、他の参加者との協議等を通して知識や技術等を身に付けていきます。

2 役割分担

○ファシリテーター

参加者の意見を引き出したり、整理したりします。グループ協議を行う場合は、グループごとにファシリテーターを決めます。

○書記

模造紙やホワイトボード等に意見を書き留めたり、絵や図を書いたりします。

○発表者

グループ協議の内容を全体に紹介します。

3 準備物の例

- ①付箋（貼り付ける台紙や書く内容に合わせた大きさや色のもの）
- ②ペン
- ③模造紙やホワイトボード
- ④ワークシートや資料
- ⑤タイマー
- ⑥デジタルカメラ（記録用）

4 基本的な流れ

- ①研修の目的や流れを確認する。
- ②各自が意見やアイデアを付箋等に記入する。
- ③グループに分かれて、意見やアイデアを整理・構造化する。
- ④各グループの成果を発表し、共有する。
- ⑤研修成果の確認を行う。

参考：村川雅弘『ワークショップ型教員研修 はじめの一步』

Plan

1 年間指導計画の見直しを行おう



年間指導計画の作成や見直しなど、教育課程の編成に関しては、カリキュラム・マネジメントの視点から全教職員が主体となって見直しに関わっていくことが重要です。中学校の外国語科担当教員を招くなどして、小・中学校の系統性等を踏まえることも大切です。

準備物の例

- 付箋（3色程度）
- ペン（3色程度）
- 模造紙やホワイトボード
- 年間指導計画等の資料
- タイマー
- デジタルカメラ（記録用）

研修の流れ

（70分の例）

1 ねらいと流れの確認【全体】（5分）

- 学校全体でカリキュラム・マネジメントに関わることの意義を共有化する。

2 現在の年間指導計画と実施状況の共有【全体】（10分）

- 現在の年間指導計画を確認する。
- 学年や教科の担当者が記録に基づいて、現在の実施状況の説明を行う。
- 中学校の外国語科担当教員を招いた場合は、中学校の現状についても確認する。

3 付箋の記入【個人】（10分）

- 現在の年間指導計画に関して、良い点、課題点を各自で付箋に記入する。
- 学習内容、実施時期については、他教科との関連性も踏まえて考える。

4 良い点・課題点の整理【グループ】（15分）

- 付箋については随時追加をしたり、KJ法等を用いて分類をしたりする。

5 課題点に対する改善策の討議【グループ】（15分）

- 児童の実態、他教科との関連性、小・中学校の系統性等を踏まえ、今後の年間指導計画作成に向けた改善策について、付箋に考えを整理しながら討議する。

6 グループ協議の共有【全体】（10分）

7 まとめ【全体】（5分）

●カリキュラム・マネジメントの三つの側面・・・・・・・・

「カリキュラム・マネジメント」は、次の三つの側面から捉えることができます。

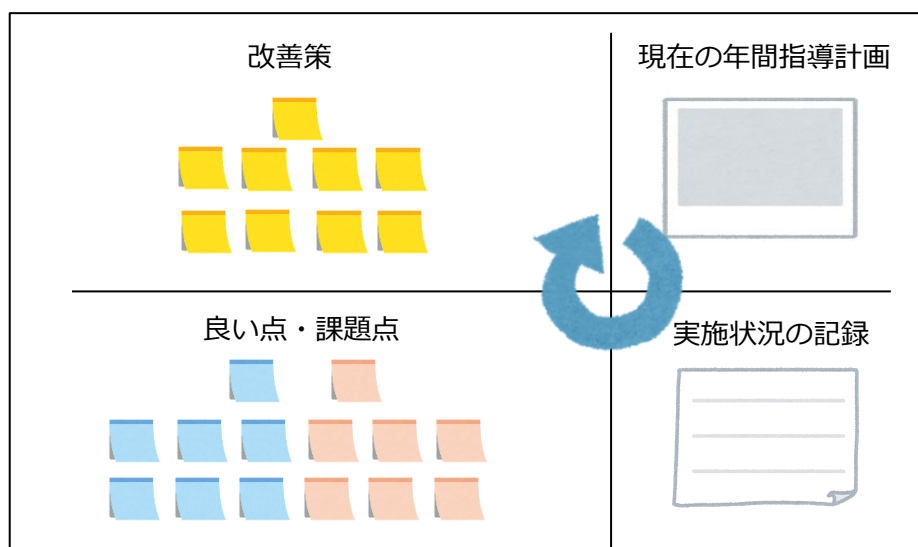
- ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

※ 引用「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 2016）

●小・中学校の円滑な接続を図るために・・・・・・・・

教育課程の編成においては、「外国語活動」や小学校「外国語科」が、現在の中学校「外国語科」とは異なるということを意識した上で、中学校との円滑な接続を図る必要があります。そのために、中学校の外国語科担当教員を招くなどして、中学校における生徒や学校の実態を確認したり、研修のまとめで助言を求めたりします。

グループで使用する模造紙のレイアウト例



※ 討議の流れに沿って整理することで、振り返りをしやすくした例です。

Plan 2 授業アイデアを出し合おう



子どもたちの主体的な学びを実現するためには、その学習の目的を明確にしたり、他教科等や日常生活との関連を意識した授業づくりを行ったりすることが大切です。プラン2では、そのアイデアをたくさん出すことをねらいとしています。

準備物の例

- 付箋（1色）
- ペン（3色程度）
- 模造紙やホワイトボード
- 年間指導計画等の資料
- タイマー
- デジタルカメラ（記録用）

研修の流れ

（70分の例）

1 ねらいと流れの確認【全体】（5分）

- 学校全体でカリキュラム・マネジメントに関わることの意義を共有化する。

2 他教科との関連性をいかした授業アイデア例の紹介【全体】（5分）

- P5を参考に具体例を紹介する。

3 他教科等との関連の確認【個人】（10分）

- それぞれの教科の年間指導計画表を見ながら、英語の授業と関連しそうな単元や学習内容に印を付けたり矢印を入れたりする。
- 他教科と関連できそうな授業アイデアを付箋に書き出しておく。

4 個人ワークの共有【グループ】（10分）

5 授業アイデアの相談【グループ】（25分）

- 書き出した授業アイデアについて、関連する教科や実施時期等の視点から整理する。

6 グループ協議の共有【全体】（10分）

7 まとめ【全体】（5分）

他教科等との関連性をいかした授業アイデア例

「英語」→「他教科等」の流れのほかにも、「他教科等」→「英語」、
「他教科等」→「英語」→「他教科等」など、様々な流れが考えられます。

● 教科の学習と関連させて

英語



After a storm comes a calm.

①英語のことわざを知る。

国語



この言葉を選んだ理由は...

②英語のことわざを取り入れたスピーチを行う。

● 総合的な学習の時間と関連させて

総合的な学習の時間



①総合的な学習の時間で地域の特徴についての学習を行う。

英語



②地域の特徴を紹介する英語のカルタを作る。

● 特別活動と関連させて

英語



①人の性格や特徴に関する表現を学ぶ。

特別活動



②特別活動で友達のよさを伝え合う活動を行う。

Plan 3 実践事例をアレンジしよう



プラン3は、他校での実践事例を自分の学校の児童に合うようにアレンジすることをねらいとしています。また、近隣の小学校同士で事例を交換して、互いに研修結果をフィードバックする方法も考えられます。

準備物の例

- 実践事例に関する資料（学習指導案等）
- タイマー
- デジタルカメラ（記録用）
- ワークシート（個人用とグループ協議用）

研修の流れ

(80分の例)

1 ねらいと流れの確認【全体】（5分）

- 学校全体で授業研究に取り組む意義を共有する。

2 実践事例の紹介【全体】（15分）

- 学習指導案等を見ながら使用する英語の表現や児童の反応等を確認する。

3 自校の活動内容やアレンジの視点の確認【全体】（5分）

- 小学校学習指導要領や学校教育目標等からアレンジの視点を焦点化する。
- 授業のねらいや児童の実態を共有化する。

4 学習指導案の作成【個人】（10分）

- 授業のアイデアや方向性を個人用のワークシート（学習指導案の枠をA4サイズで印刷したもの）にメモする。

5 学習指導案の作成【グループ】（30分）

- 授業のねらいや児童の実態を踏まえて教材や授業展開を考える。
- グループ協議用のワークシート（個人用をA3サイズに拡大したもの）を使用して協議した内容を整理する。

6 グループ協議の共有【全体】（10分）

7 まとめ【全体】（5分）

● 単元や一単位時間の授業の進め方 ●

単元や一単位時間の授業の基本的な進め方を校内で共有化しておくこと、授業計画が立てやすくなります。授業のねらいを明確にし、単元計画や一単位時間の授業の展開を考えましょう。

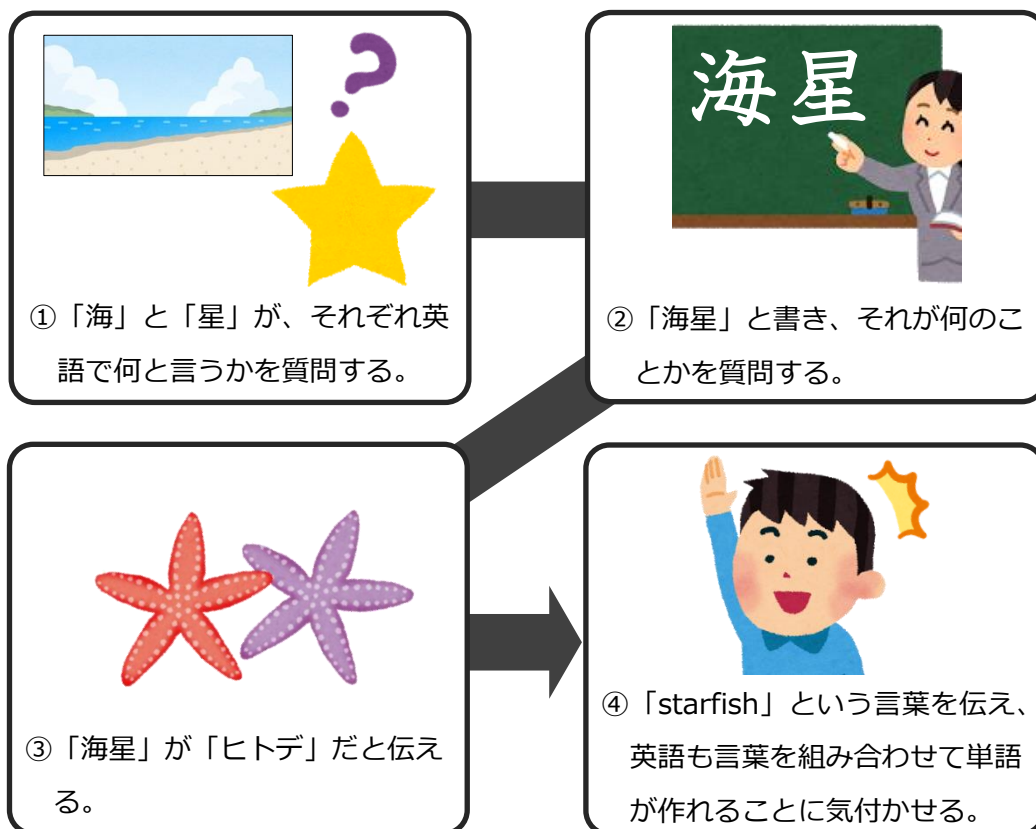
単元や一単位時間の授業の基本的な進め方の例

第1時	第2時	第3時	第4時
あいさつ	あいさつ	あいさつ	あいさつ
雰囲気を作る活動	雰囲気を作る活動	雰囲気を作る活動	雰囲気を作る活動
単語・表現の導入	復習	復習	復習
慣れ親しませる活動	単語・表現の導入	単語・表現の導入	単語・表現の導入
○聞くこと	慣れ親しませる活動	慣れ親しませる活動	慣れ親しませる活動
	○聞くこと	○聞くこと	○話すこと[発表]
	○話すこと[やり取り]	○話すこと[やり取り]	
振り返り	振り返り	振り返り	振り返り

『はじめよう 楽しい英語活動』（神奈川県立総合教育センター）をもとに一部改編

● 気付きを促す工夫 ●

授業では、一方的に学習内容の説明をしたり知識の暗記をさせたりするのではなく、児童自身の気付きを促すことが大切です。



Plan 4 絵本の活用方法を考えよう



プラン4は、英語の絵本の活用方法を考えることをねらいとしています。単に「上手な発音で読む」ということではなく、児童とのやり取りの仕方や、読み聞かせに関連して行う活動内容についての工夫を皆で考えていきます。

準備物の例

- 英語の絵本
- タイマー
- デジタルカメラ（記録用）
- ワークシート（個人用とグループ協議用）

研修の流れ

（70分の例）

1 ねらいと流れの確認【全体】（5分）

2 研修で使用する絵本の紹介【全体】（10分）

- 研修担当者が、文部科学省が配付している教材や地域の図書館で借りられる絵本等から事前に選んで用意しておく。

3 自校の活動内容やアレンジの視点の確認【全体】（5分）

- 想定する学習のねらいを示す。
- 絵本の読み聞かせの仕方や読み聞かせに関連して行う活動内容の例を紹介する。

4 絵本の活用方法の考案【個人】（10分）

- 次の2点について絵本の活用方法を考える。
 - ・児童に読み聞かせをする際の具体的なやり取り（児童への質問内容やそのタイミング等）
 - ・読み聞かせに関連して行う学習活動

5 絵本の活用方法の検討【グループ】（25分）

6 グループ協議の共有【全体】（10分）

7 まとめ【全体】（5分）

参考文献

- 神奈川県立総合教育センター 2009『はじめよう 楽しい英語活動』
- 中央教育審議会 2016「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/058/siryo/_icsFiles/afie1dfile/2015/12/08/1365071_3_1.pdf（URLは2017年1月取得）
- 文部科学省 2016「中学年を対象とした絵本活用に対する基本的な考え方」
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afie1dfile/2016/05/02/1370109_1_1.pdf（URLは2017年1月取得）
- 岡秀夫・金森強編著 2012『小学校外国語活動の進め方 「ことばの教育」として』成美堂
- 村川雅弘 2016『ワークショップ型教員研修 はじめの一步』教育開発研究所
- リーパー・すみ子 2011『アメリカの小学校では絵本で英語を教えている 英語が話せない子どものための英語習得プログラム ガイデッド・リーディング編』径書房

<小学校>『英語教育の充実に向けて』作成関係者

<助言者>

所 属	職 名	氏 名
文教大学	教 授	金森 強

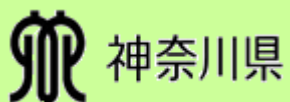
<神奈川県立総合教育センター>

所 属	職 名	氏 名
教育課題研究課	指導主事	久本 卓人
教育課題研究課	指導主事	齋藤 麻紀
教育課題研究課	教育指導員	新屋敷 瑞穂

<小学校>英語教育の充実に向けて

発 行 平成 29 年 3 月
発行者 北村公一
発行所 神奈川県立総合教育センター
〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1
電話 (0466)81-1659 (教育事業部教育課題研究課 直通)
ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

本冊子については、ホームページで閲覧できます。



神奈川県立総合教育センター

善行庁舎

〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

TEL (0466) 81-0188【代表】

FAX (0466) 84-2040

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

亀井野庁舎（教育相談センター）

〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4

TEL (0466) 81-8521【代表】

FAX (0466) 83-4500